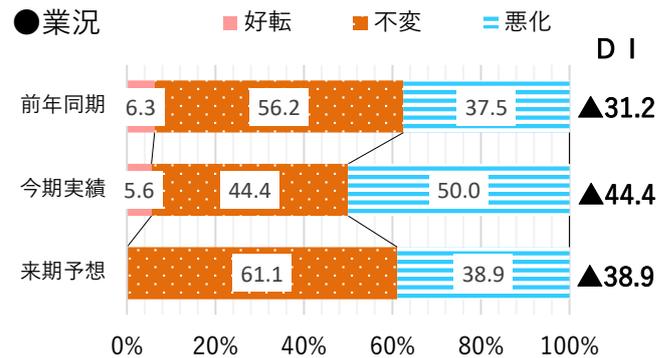


運輸・倉庫業

業況、売上、採算

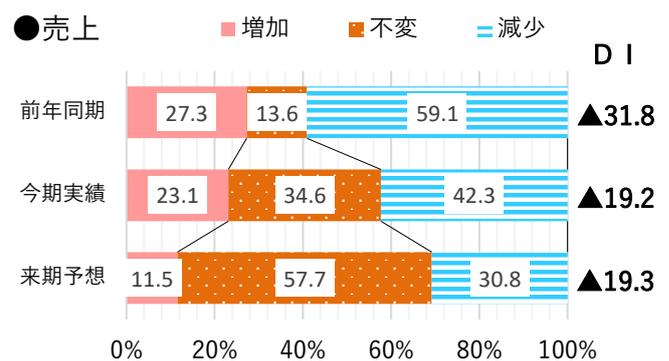
今期（2021.10～12）の業況判断DIは▲44.4で、前年同期（2020.10～12）と比べ13.2ポイント低下しました。

来期（2022.1～3）は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



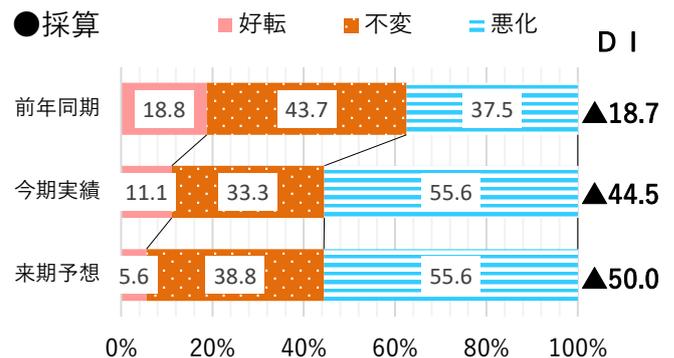
今期の売上高DIは▲19.2で、前年同期と比べ12.6ポイント上昇しました。

来期は、売上のほぼ横ばいを予想しています。

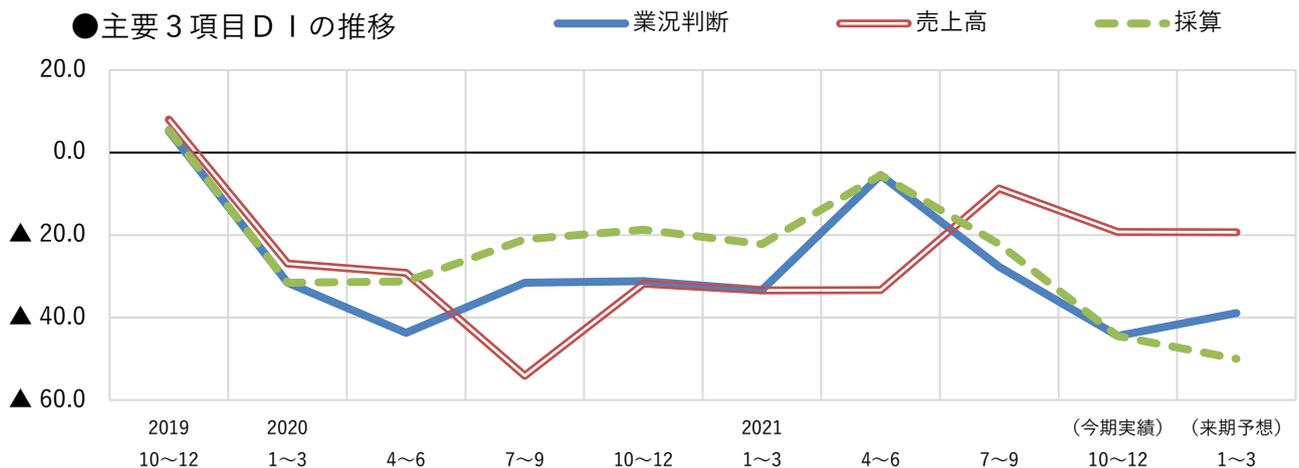


今期の採算DIは▲44.5で、前年同期と比べ25.8ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



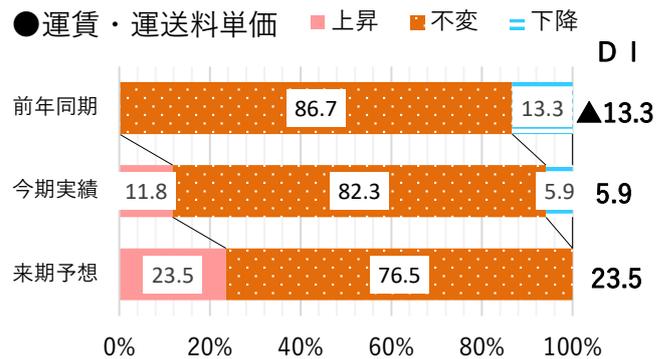
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

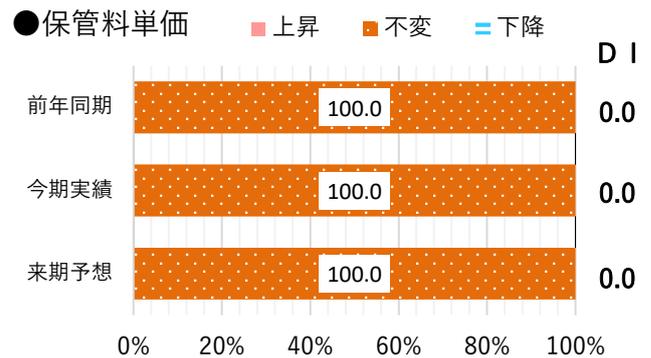
今期の運賃・運送料単価DIは5.9で、前年同期と比べ19.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

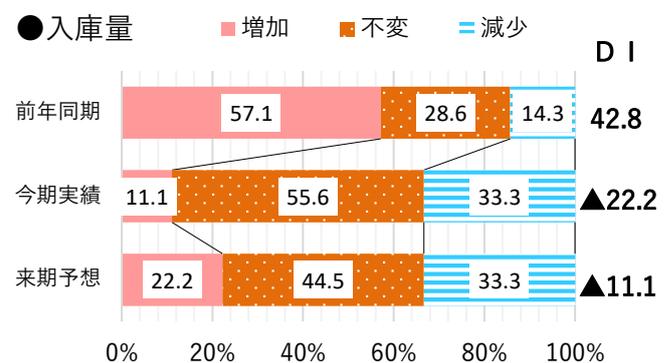
来期は、保管料単価に変化はないと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

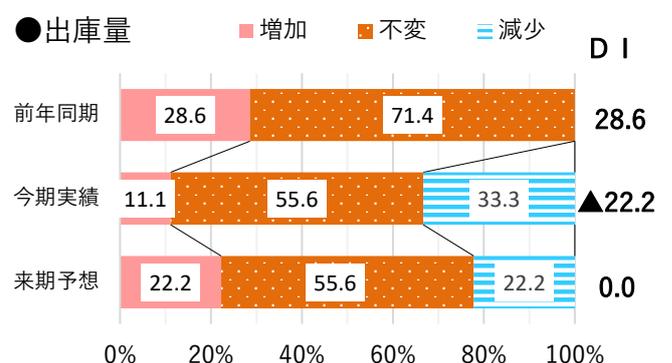
今期の入庫量DIは▲22.2で、前年同期と比べ65.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、入庫量の減少傾向が弱まると予想しています。



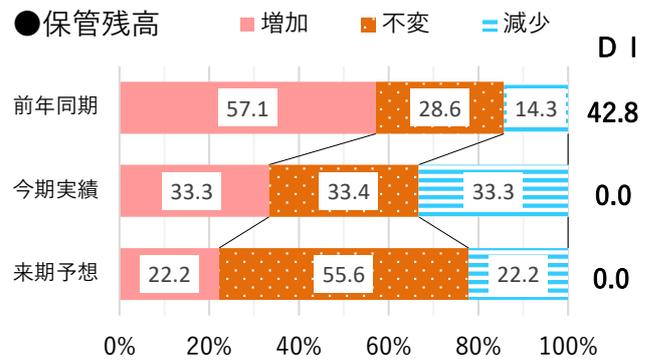
今期の出庫量DIは▲22.2で、前年同期と比べ50.8ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、出庫量の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは0.0で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に低下しました。

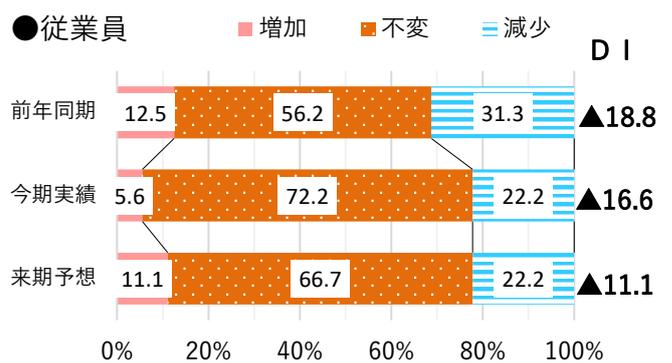
来期は、保管残高の横ばいを予想しています。



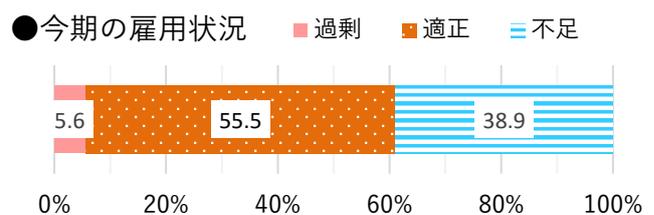
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲16.6で、前年同期と比べ2.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.6%、適正であると回答した企業の割合は55.5%、不足していると回答した企業の割合は38.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の44.4%を占めています。

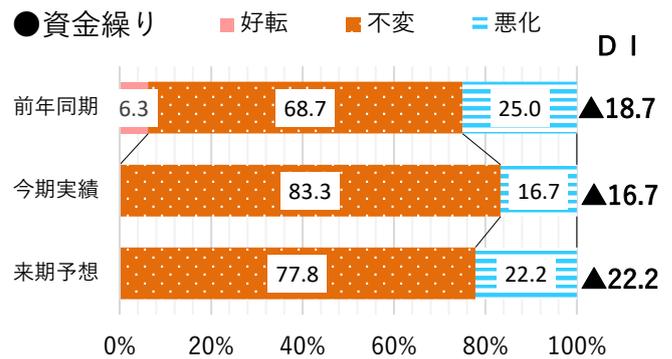
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	8
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

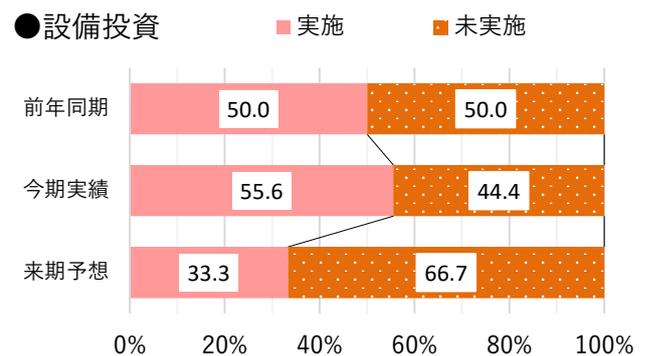
今期の資金繰りDIは▲16.7で、前年同期と比べ2.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



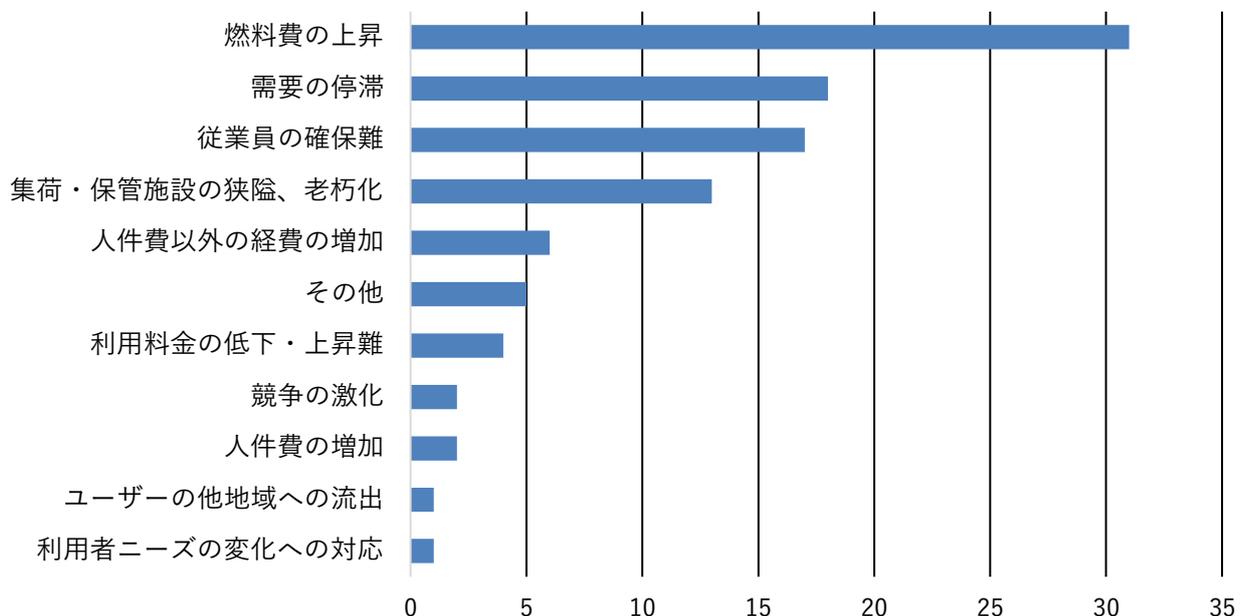
設備投資を実施した企業の割合は55.6%で、前年同期と比べ5.6ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は33.3%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 荷主の製品価格改定で、12月の需要が一時的に増加したが、今期全体の出荷量が減少しているため、業況は悪化した。(道路貨物運送)
- 輸送量の減少により、売上が減少した。運賃は横ばいだが、人件費と燃料費が増加し、採算が悪化した。(道路貨物運送)
- 前年同期比の売上は若干増加したが、コロナ禍前と比べるとまだ回復できていない。(道路貨物運送)
- 燃料費の大幅な上昇によって、利益が圧迫された。(道路貨物運送)
- 燃料費が大幅に上昇した。(道路貨物運送)
- 12月の業況は回復したが、10月、11月が伸び悩んだ。観光客が減少し、長距離移動の利用が少ないことが影響した。燃料価格は高い水準にある。(道路旅客運送)
- 貨物(融雪剤)の減少と入庫時期のずれにより、対前年同期比での倉庫収益及び輸送収益が減少した。(道路旅客運送)
- 行動制限は緩和されたが、消費マインドは冷え切っており、業況は変わらない。(道路旅客運送)
- 前年同期比で売上が増加した。(道路旅客運送)
- 在庫量、出庫量ともに不変だった。(倉庫)
- 依然として新型コロナウイルスの影響により、旅客の減少が続いている。昨年同期はGoToトラベルにより回復傾向が見られたが、今年はその反動で悪化した。干ばつによる農作物の収穫量減少や、経済活動の停滞により、減少した輸送量は回復していない。(水運)

[来期の業況について]

- 燃料価格が下降しなければ、業況の回復は見込めない。(道路貨物運送)
- 業務単価の交渉次第だが、好転すると思われる。(道路貨物運送)
- 業況は今期と変わらないと思われる。(道路貨物運送)
- 燃料費の上昇が続くと思われる。(道路貨物運送)
- 売上は回復傾向にあるが、変異株の出現もあり、消費マインドが回復するの不安を感じている。燃料価格はしばらくの間高止まりが予想される。(道路旅客運送)
- 新型コロナウイルスにより、業況は見通せない。(道路旅客運送)
- 在庫量の減少と、出庫量の増加が予想される。(倉庫)
- 旅客輸送のピークが過ぎ、船舶の定期検査の時期でもあるため、引き続き旅客が減少すると思われる。また、燃料価格の上昇が懸念される。干ばつで農作物の収穫量と輸送量が減少する懸念がある。依然として経済活動の停滞が続くと思われる。(水運)